

話題 其の12：ラマダン

今日、ヨルダンのイスラム教徒は、ラマダン（イスラム暦9月に行う聖なる断食）に突入（？）しました。職場でも唯一の日本人である私に、周囲はもっぱらラマダンの話題を提供してくれます。彼等のラマダンへの姿勢は「いよいよ来るぞ・・・」とさえ見受けられます。

昨日、シリア出張から帰ってきた職場の仲間が水たばこの道具をお土産に自宅を訪ねてきました。

彼の話では、ラマダン中の朝食は、1日5回の礼拝告知（アザーンと呼ばれモスクの大型スピーカーから流れる）の1回目が聞こえるまでに済ませないといけないそうです。

時間的には午前5時くらいですから、奥さんは早く起きて朝餉の準備をするのでしょうか。

断食は夕方、日が沈み辺りが暗くなる5時くらいまで、食べることは勿論、一切飲めないし（唾液も）、たばこも吸えません。これが1ヶ月続くのです。この間に「みんなと一緒に空腹に耐える」ことでイスラム教徒による同胞意識とか連帯、結束が強くなり、また同時に貧しい人の境遇を共有するのだそうです。基本的に純粋で真面目な修行と感じられます。

私も試しに、先月から40日間以上1日2回、朝6時と夕方6時に食事を取る生活を続けていますが、最初の1週間は辛かったのですが、胃の調子もすこぶる快調でそう苦にもなりません。ただ、一人暮らしや業務から受けるストレス解消のたばこことコーヒーは止められませんでした。ヘビースモーカーの多い私の職場で、どの様な変化が見られるのでしょうか？

友人の話では「ラマダン中は交通事故発生率が高くなる」そうです。空腹や禁煙のイライラや家路を急ぐ為に集中力が低下するのでしょうか。第9号の通信でラマダンライブを中継しましょう。

話題 其の13：贅沢の極み？

ヨルダン生活も7ヶ月が過ぎ、すっかり落ち着き「住めば都」とさえ思えるようになりましたが、それでもつい最近までおっくうだったのがガソリンの給油でした。日本のガソリンスタンドでの過剰サービスに慣れていたせいもあるのか、また英語の通じない定員とアラビックの通じない日本人のやりとり、職場の友人に「スーパーガソリン満タン」とアラビックで書いてもらい、給油の度に見せていたのですが、支払いの度に支払いと釣りの精算が気になります。そう意識するだけで「明日給油しよう・・・」と日延びするのです。

ところが、最近自宅近くに自動洗車機を設置したガソリンスタンドが開店したのです。

早速、ガソリン給油、オイル交換、洗車をお願いしてみました。

因みに価格は、スーパーガソリンは1リッターで 370Fils (63円)、レギュラーガソリンは、75Fils (47円)で、日本人の私には安くて助かっています。（ガソリンは統一価格です）

なんと言っても今回の感動は、自動洗車機でした。砂漠の国で、しかも水不足で国民にイスラム流の“雨乞い”を呼びかけているこの時期に、ふんだんに水を使います。（こんなの良いのかな？）日本の洗車機に使っているのは太めの布糸（？）を束にして回転させるタイプですが、ここのは、厚み2～3mm×幅約7cm×長さ50～70cmくらいのフェルトを束にしてゆっくり回転させ、パタパタと車を叩く仕組みになっています。洗車中も車の中で観察していたのですが、大量のシャワーとシャンプーに後ろ髪を引かれる思いでした。「多分、この水は廃水処理して再利用しているんだ。そうでなかったらビジネスにならないはず・・・」なんて自分に言い聞かすのでした。

洗車後は、5人の店員がよってたかって ①拭き取り ②磨き ③車内の掃除 の作業を一気に仕上げました。洗車料金は5人の作業費も含めて3JD（約540円）でした。

私の元に来て約5ヶ月、愛車にとってこの日は贅沢の極みでした。
